

株式会社ジャストオートリーシング

RPGベースのWeb開発ツールで 自動車リース情報提供サイトを再構築

- POINT**
- Javaによるメンテナンス性の悪さがネックで再構築へ
 - RPGベースで開発可能な「JACI400」を採用
 - 社内人員で柔軟に追加開発へ対応

COMPANY PROFILE

設立：1973年
本社：神奈川県横浜市
資本金：3億6270万円
売上高：67億1200万円(2009年3月期)
従業員数：107名
<http://www.justauto.co.jp/>

Javaで開発したJ-lineに メンテナンスの問題が浮上

1973年設立のジャストオートリーシングの事業は、もともと自動車整備からスタートしている。現在、神奈川県内有数の最新鋭設備を有し、国内外メーカー各社の車種を問わず、年間4000台を超える車検整備を実施する。

一方、強力な自社整備体制を強みに、新たな中核業務として成長させてきたのがオートリース事業であり、車両保有に関する多様なサービスをパッケージ化したフルメンテナンスリースを提供する。顧客先での迅速な整備を

可能にする巡回メンテナンスサービス、そして地場に密着したきめ細かなサービス体制を展開し、神奈川県および東京都南西部を中心に事業を大きく拡大。現時点でリース車両は1万1000台を超えるまでになった。

そのオートリース事業で重要な役割を果たすのが、自動車リース情報提供サイト「J-line」である。これはリース契約から車両情報、整備状況などフルメンテナンスリースに関するあらゆる情報を、顧客がWebサイト上で参照するためのサイトである。

オートリース事業ではこうした情報サイトが不可欠なサービスとなっており、メニュー内容や利用率がオートリース各社の競争力の源泉ともなっている。

同社はシステム/38時代からオートリース業務にかかわる基幹システムをSystem i上で運用してきた。現在は、1988～90年にかけて再構築した基幹業務システム「JUSTEM」を、2002年2月にリプレースしたiSeries 820上で運用中である。一方のJ-lineは、PCサーバー上でWebSphere Application Server (WAS) をベースにJavaで構築。Windows NT 4.0上にDB2を組み合わせてデータベースサーバーを構成し、基幹側のDB2/400からデータを転送していた。Javaでの

開発は全面的に外部に委託している。

この構成で2001年3月にスタートしたJ-lineであるが、実は当初からメンテナンス上の問題が浮上していた。システム課には現在、5名のシステム要員がおり、そのうち開発に携わるのは4名。全員がRPGを使用し、Javaの経験はない。そのため、顧客の要望に応じてきめ細かく機能追加したくても、社内人員では対応できないので、その都度、外部へ委託することになる。「外注コストが発生し、工数も必要のため、あまり頻繁には対応できません。そのメニュー内容が競争力を左右するとまでいわれる情報サイトの運用体制としては、必ずしも理想的とはいえない状況でした」と語るのは、当時のシステム課でJ-lineプロジェクトリーダーを務めた中野敦夫氏(現・リース営業部 営業課 課長)である。

社内でJavaを学習することも検討されたが、RPGスキルとの違いが大きく、また日々の開発業務が山積している状況もあって、なかなか実現しなかったという。さらにWindows NT 4.0をバージョンアップする段になって、WASのバージョンが上がり、Javaアプリケーションをすべて作り直さねばならないことが判明した。

「何の機能追加もなく、今まで使って



中野 敦夫氏
リース営業部
営業課 課長



佐々木 仁志氏
営業企画部
システム課

